（廿一日夕刊）
磐城新聞

休刊日　大祭日第一第三日曜日
定價　一枚二錢　一ヶ月五十錢　郵税拾錢
廣告料（新聞欄一行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

婦人の經濟と權利

ほせき生

元來「夫婦は一身同體」とくいひますが、そのやうな考へ方からいへば、妻の財産は當然夫の有として捧げるとか、家のために役立たせるとかゞ正しいことにもなりますが、世態が複雜になり法律上種々の問題が起こるについてはこの觀方に同意は出來ません。

英國でも永い間かうした夫婦共産共義をとつて來ましたが、彼の産業革命の一八七〇年には妻ノ財産權が確保され、次第に修正を加へて今日に至つたのであります、そこで我國ノ法律には財産は夫婦全然別にしておいて妻の財産をそれ／＼管理せしめる方法、即ち[illegible]制をとることになつたのです。

而してこの中には夫が妻の財産に對する使用收益權が含まれてゐて、妻の所有する家の家賃とか預金の利子等を自分のものとする得點があります、その他夫妻いづれのものとも分明せざる財産は夫のものと推定するといふ條文があつて多く夫の所有に歸するのが普通です、かうした諸種の缺點から私は年來夫婦別産主義を唱へてゐますが、これを端的に申せば、即ち夫婦は各自己の財産を所有し自ら管理すべきであるといふ意味なのです。

これは一見何でもなく水臭いやうでもありますが、最初から判然として置けば[illegible]破綻、惱んで[illegible]苦しみ[illegible]解決することが容易であるのは自明の理です。

次に相續といふ方面から見ますと我國の法律は所謂、長子繼の偏重が著しい特徴であつて從つて家督相續の場合における婦人の財産權について見ると、妻が夫に死別した場合夫の家督は全部法定家督相續人にゆくのであつて、妻には來ないことになつてゐるから妻は夫の生存中共に働いて得た財産も、夫妻いづれのものとも不明な財産も、死亡後はこれを得る權利を與へられない。

而して家督相續は第一に長男、次に養子若しくは庶男子にゆくことになる[illegible]が、この場合はたとひ嫡出女子があつても庶[illegible]先權があります、[illegible]ひ夫の死亡後戸主[illegible]ものは妻や娘を扶養する義務があるとしてあつても、こうした財産權なき寡婦や嫡出女子の境遇のかなり悲慘なものが多い事は想像に難くないことであります。

今日の婦人は財産權に於てすら斯くの如くであるのみならず、政治的にも教育上にも不當な差別待遇を受けてゐます。これ等不平等なる差別待遇を改善して總ての方面の均等を得るやう自覺しなければならないのでありますが、それには先づ婦人が參政權を得て獨立した一個の社會人として足場を作ることが緊要であつて、すべての問題や運動はこれと離るべからざる關係にあつて[illegible]確信するものであります。

磐新顧問

（照合を歡迎す）

（問）私は昨年秋柔道の[illegible]咽喉をおさへられましたが[illegible]の頃になつて、朝おき[illegible]ますが、これは咽喉が乾燥致し[illegible]るとひどく咽喉を押へ[illegible]ますが、これは咽喉を押へ[illegible]ことゝ原因[illegible]でせう[illegible]したらよろしいでせうか（一青年）

（答）咽喉のかわくのは鼻に故障があるためと思ひます、咽喉を押へられたことには關係がないやうです、現に角耳鼻科専門醫に診察してもらひなさい。

（問）私は畜膿症をわづらひ昨年手術を受たのですが全治致しません、手術にはすつかりこりてしまひました、手術せずに畜膿症を治療する方法はありませんでせうか（大木生）

（答）手術が完全であれば畜膿症は大概なほりますにこりにならず今一度完全な手術をお受になることをおすゝめ致します、しかし手術をさけるとすれば自然孔から生理的に百倍の食鹽水で洗滌致します。

（問）私は多汗で腋下に絶えず汗が浸出してこまります、最も有効な治療法を教へて下さい

（答）多汗症にもいろ／＼の塗布劑もありますが最も有効な治療法はレイトゲン療治です。

明日の吉凶

舊五月二十四日　新六月二十三日

▲一白の人着々と實行に取掛るべし必ずや大に增大です▲二黑の人外に在は不快を招き易き日神詣でには吉▲三碧の人本分に專念なる時は自然の通達を見るべし▲四綠の人枝葉に捉はれめ大體を守りで進退すべき日▲五黄の人一苦勞ある日小き事と雖も油斷すべからず▲六白の人額降を收め内に在りて英氣を養ふべきとき▲七赤の人打つゝ打たれつ應援に暇なき變化のある日▲八白の人奢りは我がみを削り食ふに同じ質素が第一▲九紫の人眼前神佛の慈光に浴する樣な心地ある吉」

講談　血で血を洗ふ（68）

高橋掬太郎創作　布施甲八郎揮毫

途中の不思議

「エッ、主君――？」

と忠兵工等の方がびつくりしたやうに眼を凡くした。

「主君がどうかなされたるか――？」

と清左工門は忠兵工等が訝かしげに云ふのを聞いて變に思つた。

「ぢや、主君はまだお歸りではありませぬか？」

と忠兵工が反問した

「いや、まだお歸りではないが如何なされたのでござるか？」

清左工門はます／＼合點が行かなかつた。

「はてな――」

と忠兵工等は首をかしげた。

早間重太夫はそれを見て

「お身達より、先きにお歸りになつたのでござるか？」

と不安らしく訊いたが、心の奧ではにたりと笑つてゐた。

「如何にも我が軍が敗れて某が後殿を仕り、主君は潜水八郎義春や花田數馬之助昌行、塚本主馬成勝、横山大造行友など十騎あまりを隨へさせられて、お先きにお歸りになつたのでござる」

と忠兵工は戰場の狀況を逐一物語つた。

「うむ、お先きにお歸りになつた主君が未だにお歸りでないのを見ると若しや途中で萬が一の事があつたのではあるまいか……」

と清左工門は更に深く不安の雲に包まれた。

「左様、途中で何事かあつたのではあるまいか尤もなくば我々より當然に先きにお歸りになつてゐる筈であ、我々は主君をお見送り申し上げてから、秀吉の軍勢を引受けていさぎよく斬死するつもりでありましたが、これだけの者が生き殘つて徒らに命を捨てるばかりが忠義でもないと存じ敗殘の身をながらへて漸く歸つて來たのでありまする、で主君は我々よりどうしても八日は早い筈でござる」

「だが、途中で何事かあつたにしても十騎あまりもあつたものなら一騎や二騎は立歸つて報告するであらう」

「左様一騎も戻らぬところを見ると別に何事もなくたゞ敵の目を忍ぶために途中で暇取つてをられるのかも知れませぬ」

「それにしてもお身達の方が早くなるといふのは合點が行かぬまた途中でお會ひせぬのも變ではないか」

「成程――しかし我々は人數多勢であり別に敵の目を恐れるといふこともなく一散走りに駈け戻つたのでござるから或は早くなつたのかも知れませぬ、そして途中でお會びしなかつたのもその爲とかも存じませぬ。何しろ主君は我々とちがつて敵の目に觸れては危險でござるから……」

「いかさまさうかも知れぬ」

と云うた清左工門は前夜の怪異のことを思ひうかべた。

夢ともなく幻ともなく血染めの姿が現れた花田數馬之助、聞けば主君のお供をして歸つたといふ彼が怪しい姿を現して主君の無事を告げたのはさては途中で何かゞあつて數馬之助は斬死したが主君の御身体無であるといふのかと清左工門は考へた。

（しかし數馬之助の亡靈が何故主君の御鎧を着けて遠[illegible]を見せたのであらう）

と清左工門は不審に思つた

（もしや、途中でお身代りになつたのではあるまいか）

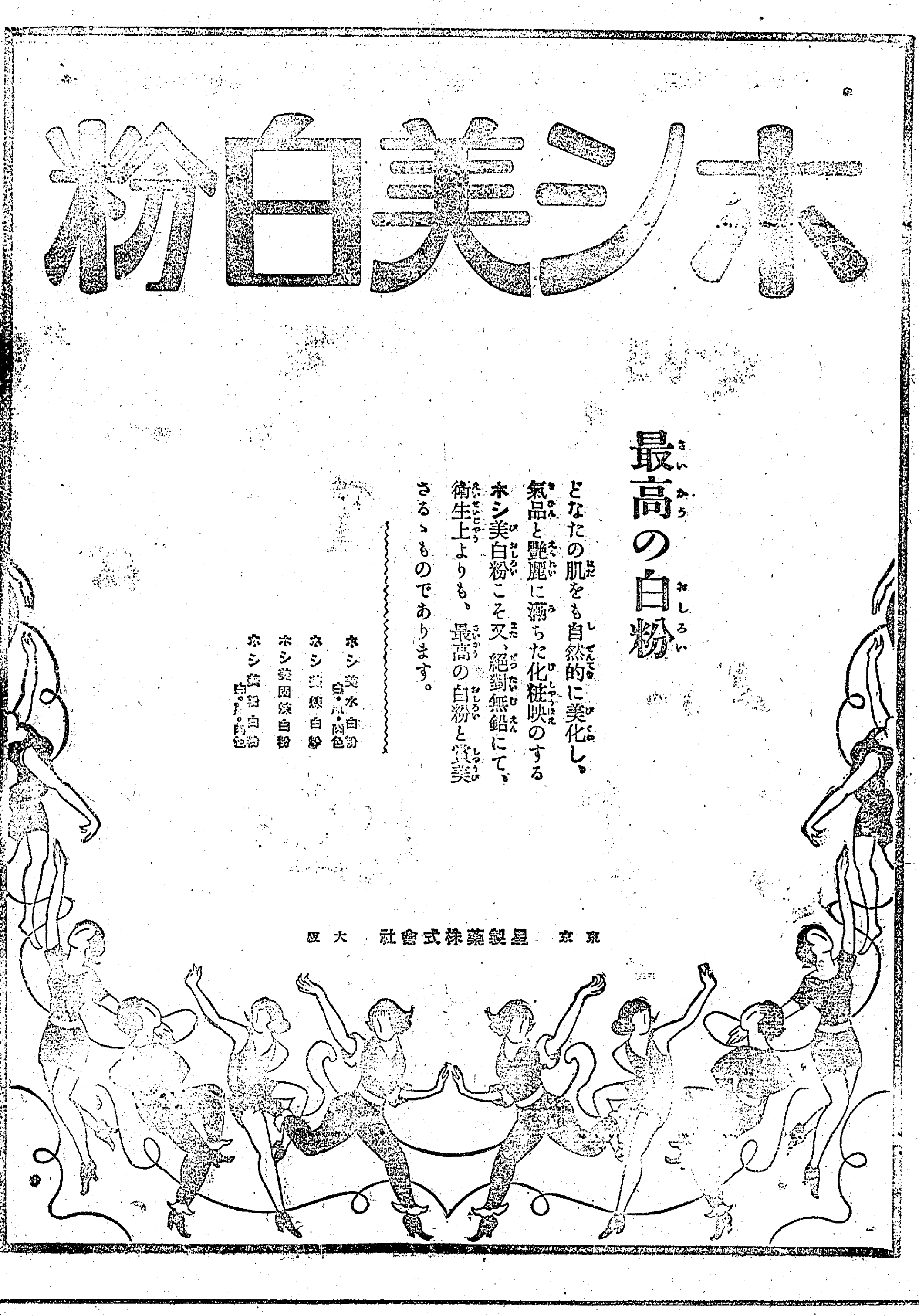
と清左工門は考へた

「いやお案じ申すこともあるまい、萬一のことがあれば誰か一人は駈け戻つて報告するであらうそれよりお身達は邸へ歸つて疲れを休め手當をなされたがよい」

と清左工門は忠兵工等を家に入れないで各々の邸に引取らせた。

そして、重太夫と共に忠兵工等が報告の一伴始終を奥方はじめ昌康や深雪の方に申上げた

仙臺高等工業學校長
[illegible]



耳鼻咽喉科専門
入院隨時（自炊の便あり）
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

官民力を併せて 實現の一途に猛進
昨夜小名濱歡迎會席上 伊東知事の挨拶

小名濱第二種商港問題が愈々實現に近つき內務省は明年度より繼續豫算を計上する內意を決するまでに漕ぎつけたので上京中の伊東知事一行は旣報の如く昨二十一日午前九時上野發午後四時泉驛着にて小名濱町に來たり土木課長と共に築港豫定地を視察しその夜新米旅館に投宿した、而して小名濱町では同日午後四時より小學校講堂に

官民合同 の知事一行歡迎會を開いた、主賓側は知事、土木課長、官房主事樫村平署長、草野、古川縣議、伏見平町長等主催者側は鈴木町長、小野縣議外三百餘名定刻鈴木町長の歡迎の辭に對し伊東知事は

小名濱商港の實現は獨り本縣の福利を增進するも許りでなく東北を開拓する上に實に重大な意義を有してゐる、故に此の問題は機を逸さず急速に實現の一途に猪突すべく屢々政府に對し運動を試みた結果近く閣議に上程される域にまで及むだが更に廿三、四日の長官會議に提議しこれを主務省に齎らす方針であるが何れ當局者と地元とが共力擧に衞る必要大いにあると思ふが故に更に熱誠を拂はれたい

意味を謝辭に伴せて述べ主客十二分の歡を盡して七時盛會裡に散會した

小名濱代表 本日上京 商港速進運動

小名濱町鈴木町長、小野縣議、町議小濱長太郎、小野務の四氏は今二十二日午前九時三十分泉驛發上り列車にて平より發つた伊東知事一行と共に上京商港速進につき內務、大藏兩省へ運動の爲め上京した

各種公共團体から 知事へ反對陳情
けふ平ホームを埋めた 反對側の三百名

係爭中にある大瀧發電所問題に對し許可反對同盟會側では新任伊東知事の明徹なる裁斷により初期の目的を達成すべく伊東知事が昨二十一日東京より小名濱町に來る途中を反對同盟會の高橋聯松、三森虎雄、馬目武之助、川崎文治の諸氏は磯原驛まで出迎ね同車して交々反對理由を陳情する處あり更に昨夜磐城銀行樓上に反對同盟會委員會を開き對策を協議した結果各區長、衞生區長、靑年團、消防組、平町醫師會等各團体より反對の陳情書を知事に提出する事を決議し直ちにその

行動に移 り今廿二日午前十時五十分平發にて知事一行が上京に際し反對同盟會員約三百名はホームに知事を見送り右各團体の反對陳情書は代表山崎喜正氏の手によつて提出し井上縣議、大森、阿部町議の三氏は知事と共に同車し途中反對趣旨を具陳する處あつた

平署の犯罪 檢擧件數
一日平均四件

平署に於ける既往三ケ年の總犯罪檢擧成績は十四年の總件數一四一八對一五〇七次に十五年は一三九一對一四三〇本年は最近迄の五六七の中五四三を檢擧してゐるが犯罪別では各年共に六五〇から七五〇に上る窃盜が最高で年次增加しつゝある詐欺橫領の類及び氣荒な炭鑛勞働者等の在住關係で每年四件乃至五件の殺人を出だし傷害もまた六ヶ五六件あり本年は勞働爭議が爲め既に五十九件の傷害に達した同署一日平均の檢擧は實に四件弱に當つてゐると

郡出身の藤掛氏が 世界觀光會を組織
容易に世界を一巡する 出發は八月中旬

本縣農工銀行頭取白井博之氏の令弟である東京日本橋區通油町內外系物問屋株式會社藤掛商店主藤掛十一郎氏は洋行して本春歸朝したが前朝鮮銀行總裁現北海道水力電氣會社々長美濃部俊吉氏東京十字屋樂器店社長倉田菊次郎氏その他有力人々と相謀り世界觀光會を創立し邦人をして親しく海外の事情を視察せしめ人文の興隆、商工業の發達並に民族相互の親和融合を計る事となつたが一行は來る八月十二、三日頃橫濱を解纜し歐米諸國を巡遊して十一月二十三日歸朝の筈で規則書は東京市外澁谷町上澁谷一三五番地五號世界觀光會宛申込めば直ちに贈呈する筈である

大浦村に 穀檢出張員
設置に決定

石城部下の白米生産年額は十七萬石あるが此のうち二萬七千石を生産する大浦、大野、四倉方部の各村では夙てから産米の向上を計るため、穀物檢査員の駐在檢査を福島檢査所に出願中で殊に大浦村では同村にある農業倉庫の附屬建物を穀物檢査の事務所に提供する條件を附して出願しゐたが愈々大浦村に穀物檢査吏員を駐在せしむる事に決定した

平町の酌婦 風紀を亂す
平署嚴重取締

平町には現在二十數軒に亘るバーとかカフエー等がありて女給と稱する女たちが盛んに風紀を亂してゐる事は喋々するまでもないが平署では過般來から私服巡査を密行させこれ等を根こそぎにすべく張り込んでゐるがこれとならんで南町に住む私娼跋扈は話しの外で心あるものはいづれも眉をひそめてゐるものが多く平署では近く大々的に檢擧を開始する筈

二萬勞働者の爲め 發電所設置不可
關東評議會一派が 猛烈な反對運動

關東評議會磐城支部長山代吾宗氏は過般爭議に際し磐城炭礦を馘首されその後各種問題を研究中であつたが目下係爭中である大瀧發電所問題に對し、磐城、入山兩炭礦が要する飮料水は大瀧江筋より取水しなければならぬのに萬一大瀧發電所が設置されては水質が惡化し二萬勞働者の保健に關する重大問題だから絶對反對せねばならぬと猛烈な反對運動を開始した

草野大浦方面 田植不能
水不足の爲め

石城郡下草野大浦村方部は灌漑用水路である小川江筋が本年は至つて水薄の爲め不流田は容易に灌漑が出來ず田植の出來ない場所が約二三十町步に及ぶ農民等は非常に困難してゐる

三十年後の平町
小名濱港と其近郊
平町 北總生 投

（三）

今より三十年前（昭和二年）常磐炭田の命脈は今後五十年は大丈夫であらうと云はれたが然し間斷なき科學の進步による採掘法の發達は遂に昭和十七年頃には殆ど掘り盡し、さしも世界的に有名だつた常磐炭田も遂に沒落 運命に陷入つたのであつた、炭坑の沒落により平市の運命も一時に浮沈の瀨戶際を徨つたが翌年小名濱灣を中心とした海底一帶に大炭脈が發見せられてより急激な發展を遂げたその炭質は撫順炭を凌駕し瓦斯製造用として遠く香港及びシンガポール邊迄輸出さるゝに至つた、

小名濱港の隣港江名には太洋漁業會社が此處を根據地として港內には常に遠洋漁業に從ふ冷衞船が碇泊し岸壁には鐵筋コンクリート四階の大倉庫と鑛結工場が十數棟立並び黑煙は常に空を蔽ふてゐる、海岸近くを走る高速度電車に乘り豐間に着けば鹽屋崎燈臺下一体の海岸は二三年前出力三十八萬キロの潮力發電所が竣成しその規模の莊大なるは驚くばかりである、三十八萬キロの電力の內十三萬キロは常磐線の電化列車に供給し海底炭坑及び超高級セメント會社は各八萬キロの供給を受け他は平市近郊の工場地帶と農村の電化に消費されてゐる

この潮力發電所は去る昭和二年頃英國に於て試驗的に建設せられたのが最初で滿潮と干潮時を利用して發電する裝置である滿潮の際潮水を入れ水門を閉めて貯水し干潮の時それを放流するその勢を以て水車を動かし發電機を廻轉する方法である、昭和十五年頃より開墾に着手した湯の嶽二つ矢山一体の草木の少い禿山は今日に於ては見事な葡萄園に開發せられ山の中腹には白亞の葡萄酒釀造場が點々として散在し釀造せられた葡萄酒は直に專用電氣鐵道により平市に送られるのである、最初其の品質はフランス製品に比非常に劣つてゐたが今日では幾多改良せられ何等遜色なき迄に至つた。

尚最後に特筆すべきは平市の下水設備である、三十年前の下水設備は頗る不完全極まり眞夏に至れば惡臭鼻をつき當時の文明施設に於て最も後れてゐたのであつたが今日では各家々より排泄する下水は町の一個所にある下水淨化場に誘導せられて一晝夜經過後は直徑六十インチの暗渠により豐間沖一浬の地點に放流せられてゐる（終り）

先づ應急の策に 藤原川を改修
工費二萬三千圓を投じ 關係農民蘇る

石城郡玉川村では同村を貫流する藤原川の川巾が同村に入りて殊に狹隘となつてゐる關係上僅かの降雨等にても雨水の爲め河水が兩岸に氾濫して農作物を流失せしめられる等同村民の被害は毎年頗る甚大なるものがあるので之が改修工事に就ては屢論議計劃されてゐたのであつたが工事費の事情等に依り未だに實現を見るに至らざりしが愈此程工費二萬三千圓を投じ潰地一町餘に亘り大改修を行ふ事に決定したが工事着手期は今秋九月頃になる見込である

小名濱方部の 農民蘇る
水揚ポンプで

小名濱字定西の水田約百廿町歩は水不足のため田植不能に陷り自町築港の三十馬力揚水器を借り受け用水する事となつた旨旣報の如く其の後揚水頗る順調で同地內水田には昨日から一齊に田植に着手した此れに依つて郡下全部の田植も些な

澤田評定官一行 係爭の實地調査
溫泉保全の鑛區問題 成り行注目さる

〈此の二三日中には完了するものと觀られてゐる〉

前入山坑務所長吉本眞一氏は曩に仙臺鑛山監督局長に出願したる石城郡湯本町大字湯本字三函地下の石炭礦區に對し其筋では同地生存の大動脈を以て目せられてある溫泉の保全を理由とし之れに不許可の決定をなしたるを違法なりとし行政裁判所に右不許可處分取消請求の行政訴訟を提起中であつたが之が爲め行政裁判所評定官澤田竹治郎氏は書記その他係職員一行十餘名と共に同地に出張同夜は松柏館に一泊二十日朝來原告吉本眞一氏をはじめ被告側の仙臺監督局長大西義一氏（代理市丸技師）其他立會ひ同區長比佐賢司入山炭礦技術部大貫輕次兩氏等も參加し實地に就て詳細なる調查を遂げた

照る日曇る日 日活作品 河部五郎主演

（第四編修羅城）と化した向島の化物屋敷、白刃閃き狐火點々たる中に妄白雲堂は一刀を肩先に浴び、堀端の庭へ逃込んだ。羅刹の死を信じた加納八郎一味は西下の途に就いた。一方鐵扇のお林は偽武者六兵衛を惑して居たが、一夜加納八郎の爲め血祭りとなつた。幸運にも加納の魔手を逃れ得た細木年尾は惡人お妙に欺かれた懊みから心ならずも惡人團に參加した。死んだ筈の白雲堂は生て居た。河部の白雲堂、大河內傳次郎の加納

七十五圓を呼むで 尻上りの春繭
愈々終期に近ついた 四倉市場の昨今

繭の出廻りもそろ〳〵終期に入つて來たが廿一日の石城販賣利用組合四ツ倉市場に於ける取引高は双葉郡方面からの出荷もあり約六百貫に達し取引相場は最上物白繭七十五圓八十錢買馴七十二、三圓と言ふ今春繭出廻期に入つてからの最高値を示すに至つた此れは繭の出廻が少くなつて來たため競爭入札をもつて取引かれた爲めで今春繭の最高値を現出するに至つたものであると

小名の大敗 鯛七千尾
毎日の豊漁

小名濱海岸の大敷網は過般の鮪大豊漁引續いて相當の大漁を見てゐるが更らに今二十二日は鯛七千尾の大漁があつた

切手賣切れ 平局の記念
約三千枚を

萬國郵便聯合加盟五十周年の記念切手は二十日來平局にも發賣してゐるが發賣開始するや賣れ行き非常に良好にして同局に配付された一錢五厘千四百枚、三錢千五百枚、六錢三十錢、十錢の十枚は殆ど第一日目なる二十日中に賣れ切りの姿となり昨二十一日午前十時半現在の殘は三錢切手僅に百枚のみであつた

偽記者逮捕
長瀨謙が品川で

鹿島村生れ當時住所不定無職永瀨謙（三九）は昨年頃から新聞社の主幹と稱し地方出身在京有志を戸別に訪問廣告料を詐取してゐた事發覺二十日午前中東京品川警察署に逮捕された

十五娘が 死ぬ氣で家出
行衞を搜査中

石城郡赤井村大字西小川前田藤吉三女キヌ（一五）は十九日午後五時頃突然行衞不明になつたので二十日平署に搜索方を願ひ出たがキヌは昨年中水戸市の旅館に女中として働いてゐた事もあり附近の者は男と一緒に小川鄕驛から乘車した處を見てゐるので或は誘拐されたのではあるまいかといはれ平署では極力搜索中

東煙室

既報平町の老舗西村屋藥店へ押入つたピストル强盜と店員との對話

强盜玩具のピストルらしいものを鼻先へつきつけ「騷ぐとこれだぞ、痲睡藥のある處を敎へろ」

目を擦り乍ら第一の店員「俺には解んねえから其の人に訊きなんしよ」

搖り起さされた第二店員「藥屋だからあるにはあるが一体何に使うんだい」

强盜「何でも良いからさつさとしろ」

第二の店員「眠るも死ぬも匙加減だから云ふんだ罷合の都合があるぢやねえか」

强盜「そんなに面倒くせえんなら要らねえや」

强盜退場、近所から曉告ぐる雞聲、悠つくりした西村屋强盜劇第一卷の終りビリヒリツ。

平町南町 上田外科醫院 電話一二九番

廿二日より上映 映畫御案内

日活齋藤社懸賞當選脚本映畫 長崎捕物悲話 南蠻繪更紗 全六卷

唯!! 人間の魂に烙印せられたる「愛」其のものは人生共存の窮極であり高潮である、そしてまた悲しき死の序曲でなからう？

ファン諸兄姉熱狂的御希望に迎へられて大名篇再度の上映

我 河部五郎主演 大河內傳次郎 尾上多見太郎 酒井米子

幕末安政捕物奇談 浪人修羅王 全七卷

浪人？直參？宵も三つの魂は消ねた願は近づいて來るのだ…御用だ…寄るな…寄れば村正の鍔が鳴るぞ…觸れば汝の魂は消ゆるぞつ…………

説明石井孝、伴奏指揮石川茂五郎

淺岡信夫……努力主演

鑛山猛鬪活劇 太陽に直面する男 全八卷

人間は自分の不滿を神に感謝すべきで穩かに自分が滿足してゐるのは罪惡である、何れ程幸福であろふか……小より大に惡より善に此の活動こそ眞の生活なのである……

土日曜 學生デー 平館 高級映畫常設 電四六六

居ながらに萬斛の涼味

扇風機月賦販賣

三月拂十二吋頸振 一回目十二圓 二回目十圓 三回目十圓

灼熱の眞夏が近付きました

事務所のテーブルの上に……

商家の店頭に……

可愛お子さん方の爲にも

各御庭に一臺は是非お備へ下さい

モーター扇風機の修繕も致します。

電機機械 日東商會 平町白銀町九番地 電話平六五〇

診察無料

如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい

院長博士 敬白

大谷時計病院 電話一九番

登錄商標

釀造元 福島縣平町 山崎合名會社 電話（營業部一〇番）（釀造工場二七番） 振替東京一九七五五番

東京支店 上野車坂町四三 電話下谷五七二二番 振替東京六八三二二番